

31年4月オープン目指し着工

南東北「東京リハビリテーションセンター」世田谷

世田谷・梅ヶ丘拠点整備事業

南東北グループが建設・運営する「(仮称)東京リハビリテーションセンター世田谷」の新築工事安全祈願祭は9月19日(火)に東京・世田谷区の旧都立梅ヶ丘病院跡地で行われ、渡邊一夫理事長がクワ入れし、平成31年4月開設を目指した工事の安全を祈願しました。



クワ入れする渡邊一夫理事長

この施設は世田谷区が約7500㎡の跡地を活用、保健センターや福祉人材センターなど区複合棟と高齢者・障害者支援施設などの民間施設を建て、世田谷全体の保健医療福祉の拠点とする梅ヶ丘拠点整備事業。



階層構成

民間施設棟は公募で介護老人保健施設運営などで実績があり、医療ケアに優れ、回復期リハビリ病床やリハビリ機能重視の南東北福祉事業団・脳神経疾患研究所の南東北グループ案が選ばれました。

総事業費約70億円建て、建設請負は熊谷組。地上8階建て(延べ床面積は約1万5400㎡)の中に92床の回復期リハビリテーション病棟はじめ一般療養60人、認知症強化40人の介護老人保健施設、午前・午後各30人の通所リハビリなど高齢者支援施設を整備。障害者支援施設には入所・介護(定員各60人)自立(同20人)、児童発達(同50人)支援、地域交流スペースが設けられます。

心肺蘇生法や健康度チェックに関心

フェスタで救急の日イベント

総合南東北病院の「救急の日記念イベント」は、9月9日(土)正午から郡山市日和田町のショッピングモール「フェスタ」1階特設ステージで行われ、親子連れなど市民で賑わいました。市民に救急医療や救急業務への理解と応急手当の大切さを認識、緊急・災害時に役立つ



市民で賑わった救急の日イベント

てもらおうと毎年開催しています。

会場には身長や体重・体脂肪・血圧・肺年齢測定、健康・医療相談コーナー、応急手当の仕方、心肺蘇生法・自動体外式除細動器(AED)使用

法の実習に挑む姿も見られ、健康と救命への関心の高さを窺っていました。

公明党の山口代表らが来院

BNCT研究センターを視察

公明党の山口那津男代表らが8月18日(金)午後、郡山市の



BNCTの治療室を視察する山口代表(中央)ら

南東北BNCT研究所を訪れ、次世代のがん治療として期待され昨年初めから治験を実施している「ホウ素中性子捕捉療法(BNCT)」の施設や状況などを視察しました。

同日郡山市で開かれた同党県本部の夏季議員研修会に出席、昨年7月に三春町に開設した県環境創造センター交流棟「コミュニティ福島」を視察した後訪れました。

一行は山口代表はじめ横山信一・若松兼維両参議院議員、

法の体験ステージなどが設けられ、同病院の管桂一(麻酔科)ら医師、看護師、検査技師ら約20人が相談に応じ、アドバイスしました。

イベント開始とともに買い物にきた高齢者や親子連れが訪れ、さっそく血圧や体脂肪を測ったり、肺年齢など健康度をチェック。特設ステージでは、子ども連れの母親が応急手当の仕方を学んだり、人形の胸を押して心肺蘇生法やAED操作の実習に挑む姿も見られ、健康と救命への関心の高さを窺っていました。

真山祐一衆院議員、甚野源次郎同党県議長ら13人。2階会議室で渡邊一夫理事長が民間病院で世界初のBNCT治験状況を説明。「早く認証を得て治療を始めたい」と述べたのに対し、山口代表は「医療福祉の政策面に役立てていきたい」と語りました。

吉本高志脳神経疾患研究所最高顧問、高井良尋センター長がBNCTの概要などを説明した後、地下1階のサイクロトロン装置や治療室などを見学。国内外から視察が相次ぎ、難治性の再発がんや進行性がんの有効とされる最先端医療システムに山口代表らは真剣に見入っていました。